

 **プログラム・キャリア紹介**
後期研修後のキャリア部門

C-01 手稲溪仁会病院／手稲家庭医療クリニック家庭医療研修プログラム

当プログラムは開始して5年が経過し、卒業生も北海道内だけでなく全国で家庭医療専門医として活躍するようになりまし
た。初期研修から5年間継続して手稲家庭医療クリニックでの診療を通じた研修ができることが一つの特徴ですが、長い継続
性を活かしてそのまま当院のフェローやスタッフになる卒業生も出てきています。当プログラム卒業後のキャリアオプション
は以下のものがあります。

- ①手稲家庭医療クリニックフェロー：都市部における地域連携、Faculty Development、リサーチなど幅広い活動を個別のニ
ーズに応じて支援します
- ②手稲家庭医療クリニックスタッフ：当院は初期・後期研修医が10名以上在籍しており、医学生や医師以外の他職種にも指導
の機会が豊富です。指導の仕方を指導経験の豊富な指導医のもと、学んでいく仕組みがあります。診療現場は手稲家庭医療
クリニックの緩和ケア病棟、外来、在宅があります。
- ③地域医療スタッフ：当院で運営している喜茂別町立クリニック（無床）の医師としても勤務が可能です。パートタイム／フ
ルタイムともに可能です。
- ④手稲溪仁会病院総合内科スタッフ：手稲家庭医療クリニックと地理的に近く、密接に連携していますので身内のような関係
で診療・教育が可能です。外来、病棟、救急があり、病院総合医として豊富な症例とコンサルタントする専門医群との連携
で臨床能力を伸ばし、発揮することができます。

以上のように手稲家庭医療クリニックを中心に、へき地診療所としての喜茂別町立クリニック、都市部急性期総合病院とし
て手稲溪仁会病院総合内科という多彩なフィールドを卒業後の進路として提供しています。どの現場の組み合わせも可能で
すし、どこか一つの現場（例えば手稲家庭医療クリニックの緩和ケア病棟専従など）に専念して診療を行うことも可能です。ま
た診療だけでなく、家庭医を養成する拠点として常に医学生や研修医の指導を担当することができ、独立した医師としての診
療だけでは得られない医学教育に従事する喜びもある現場です。

♣女性医師が働きやすいような工夫／当院は上記のような多彩な現場をグループ診療という形で運営していますので、パート
タイムでの勤務が可能です。医療法人溪仁会として様々な支援の仕組みがあり、保育所も完備しています。グループ診療という形
で女性医師でなく、様々なハンディキャップや家庭の事情があっても診療が継続できる仕組みを確立していますので、安心し
て仕事のできる環境です。

●連絡先／医療法人溪仁会 手稲家庭医療クリニック 〒006-0812 北海道札幌市手稲区前田2条10丁目1-10
TEL：011-685-3920 FAX：011-685-3921 E-mail：kumagai-ma@keijinkai.or.jp
担当者：手稲家庭医療クリニック事務 熊谷 雅代

C-02 北海道家庭医療学センター（以下 HCFM） フェローシップ

【概要】

家庭医療専門研修修了者に対し、家庭医療指導医・診療所経営者としての素養を磨き、家庭医としての生き方の軸を持ち、活躍できる人材への成長を目指すべく実務経験と学習機会（図）の両方を提供する2年プログラム

【実務経験とは？】診療所副院長・副所長の立場を提供し、以下の機会を持つ。

①家庭医療診療

・家庭医療学の深い学びと実践（医師患者関係・苦悩の癒し・地域包括ケア）

②診療所運営

・副院長・副所長の立場で実践する診療所経営、対外活動
・HCFMにおけるマネジメント活動

③教育

・医学生、初期・後期研修医教育におけるカリキュラム作成から実施・評価

④研究

・京大医療疫学講座（福原俊一教授）・NPO 法人 iHope との共同体制で提供する fMAP プログラム（臨床研究の知識獲得とチームによる研究プロジェクトの実践）
・京大医学教育推進センター 錦織宏准教授のサポートによる質的研究の学習

【学習機会とは？】

①遠隔 TV 会議による毎週3時間のグループ学習

草場を中心に全スタッフが関わる講義から理論を学び、それを踏まえた実践を報告するための時間。研究は上述した京大との連携コースを基本とする。

②フェロー同士のコミュニティ学習

①の実践共有に加えて年2回の合宿を通じて異なる診療所のフェローが経験を共有し、教え合う文化を育む。

③コースポートフォリオ

これは振り返りと記録を兼ねた教育方法であり、学習者が①②で得た学びを、これまでの家庭医への歩みと統合することを目指す。このプロセスは現場スタッフ・コース責任者（草場）・副責任者（宮地）がサポートする。

【関心のある方へ】

1. 「公開フェローシップ」；コンテンツを一部体験できる場を遠隔講義（5/19）と対面セッション（6/7）の二部構成で持つ予定です。詳細は連絡先まで。
2. 現場見学；講義参加、修了生との対話など多彩な準備があります。
更なる詳細はこちら；<http://www.hcfm.jp/education/fellow/>

♣女性医師が働きやすいような工夫／フェローとは別に、女性医師への工夫もあります。

- ①組織待遇；正職員からパートまで柔軟に対応あり（診療業務から組織業務まで参加の程度を個別に相談可）
- ②診療体制；訪問・外来診療含め完全なグループ診療であり、出産・育児の段階に応じて短縮勤務からフルタイムへの緩徐な移行や待機免除、子供の発熱時の業務交代などの柔軟な対応と、家庭医としての医師患者関係の継続性の維持の両立も期待できます。
- ③過去の実績；動画（<http://www.hcfm.jp/education/movie.html>） をご覧下さい。

●連絡先／医療法人北海道家庭医療学センター事務局 遠藤

〒007-0841 札幌市東区北41条東15丁目1-18 TEL：011-374-1780 FAX：011-722-9387

E-mail: info@hcfm.jp



C-03 コンダクター型総合診療医の養成

本プログラムは、文部科学省「未来医療人材養成拠点形成事業」として、高度医療の要否を判断し、患者を適切にトリアージしうる最新の医学・医療知識を有し、かつ地域包括ケアを統括するためのリーダーシップを発揮し、地域発の臨床研究を推進できる「**コンダクター型総合診療医**」の養成を目的としています。インテンシブコース（26年度開講：3年間）と社会人入学大学院コース（27年度開講予定：4年間）があります。

プログラムの概要：東北大学と本プログラム参加医療施設である「**地域教育拠点**」（**気仙沼市立本吉病院、石巻市立病院開成仮診療所、みちのく総合診療医学センター**）を医療情報ネットワークで連結し、各地域教育拠点の後期研修医・医師に対し東北大学は専門医療や医療マネジメントに関する専門知識・スキルおよびリソースを提供し、かつ地域発の臨床研究を指導・サポートを行います。後期研修後の医師は、このプログラムを受講することにより、様々な実践的臨床トレーニングや円滑な医療マネジメント学習のためのオンザジョブトレーニングの機会を得ることができ、従って地域にしながら**キャリア形成**および、さらなる**総合診療医のスキルアップ**が可能です。本学大学院に社会人入学した上で、このプログラムを選択すれば、**学位取得**も可能です。専門医取得後の医師はさらに指導教官として、次世代の総合診療・地域医療を担う医学生・研修医の教育に携わることもできます。

地域教育拠点の紹介：

気仙沼市立本吉病院は、東日本大震災で甚大な被害を受けた三陸沿岸に位置した高齢者が多い気仙沼本吉地区の唯一の医療機関であり、年齢を問わず、精神的・身体的問題を切り離さない地域医療・家庭医療を提供することを目指しています。

石巻市立病院開成仮診療所は、東北最大の仮設住宅群の中心部にあり、刻々と変化する被災地・仮設住宅住民のニーズに合わせ、多職種連携による地域包括ケアとしての保健・予防活動とコミュニティ創設・支援活動を通して、プライマリ・ヘルス・ケアの重要性・有効性を実践で学ぶことができます。

みちのく総合診療医学センターは、塩竈市の地域医療支援病院である坂総合病院を中心として、中小の地域病院、診療所も含めた教育フィールドをもち、救急医学、病院総合診療、家庭医療、在宅医療などを幅広く経験可能でバランスのとれた総合診療医の育成が可能です。

◎連絡先／東北大学病院 総合地域医療教育支援部 〒980-8574 宮城県仙台市青葉区星陵町1-1
TEL：022-717-7587 FAX：022-717-7508 E-mail：administ@soushin.tohoku.ac.jp
担当者：石井 正（担当秘書 鈴木 しのぶ）

C-04 福島県立医科大学 家庭医療学専門医コース フェロウシップ

福島県立医科大学医学部 地域・家庭医療学講座は、後期研修を終えたあなたに、更なる4つのキャリア支援を提供します。

◇在宅医療専門医フェロウシップ ～在宅医療のスペシャリストとして成長したい方～

在宅医療専門医の指導のもと、末期緩和ケアや神経難病、高齢者のケアを担当します。地域の介護事業所、行政等との連携を通じて在宅医に必要なスキルを高めます。1年間の研修後、日本在宅医学会認定 在宅医療専門医試験受験資格が得られます。

◇病院総合医フェロウシップ ～病棟管理も含めた包括的医療を実践する現場で成長したい方～

家庭医療指導医と他科専門医の強力な理解とサポートを受けて、地域密着病院で研修を行います。総合診療科外来と救急外来を担当し、確かな診断能力に磨きをかけると同時に家庭医を特徴づける能力をさらに発展させます。

◇家庭医療指導医養成フェロウシップ ～日々家庭医としてのリーダーシップを求められる現場で能力を高めたい方～

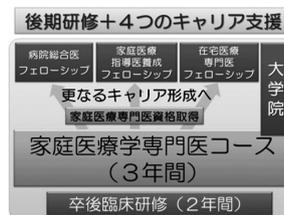
学問としての家庭医療学の理解を深め、診療と学生・研修医の教育現場で実践、評価を行います。また、クリニックや講座の組織運営にも積極的に関わることのできるマネジメント力を養成します。

◇大学院博士課程コース ～リサーチマインドを身に付け、ものの見方や考え方の感度を高めたい方～

家庭医として働きながら、また他のフェロウシップと並行しながら大学院生として研究を行う事ができます。テーマは、家庭医の診療、学生・研修教育、地域ケアなど様々なテーマで可能です。プライマリ・ケア分野の研究先進国のエキスパートと交流もあります。

♣女性医師が働きやすいような工夫／当講座では、女性医師の出産や育児を行う期間においてオーダーメイドのサポート体制を提供してきました。勤務地の選択、時短勤務、休日当番の免除などに加えて、急な欠勤に対応するバックアップ体制や長期休業後の復帰研修も整備しております。

◎連絡先／福島県立医科大学医学部 地域・家庭医療学講座 〒960-1295 福島県福島市光が丘1番地
TEL&FAX：024-547-1516 E-mail：comfam@fmu.ac.jp Web サイト：http://www.fmu.ac.jp/home/comfam/
担当者：菅家 智史



C-05 鉄蕉会 亀田ファミリークリニック館山 (KFCT) 家庭医療後期専門研修プログラム

【亀田ファミリークリニック館山の key word】

伝統のプログラム、スケールメリット、診療の数、診療の幅、専門医 / 他職種との強い連携、地域での活動。(実際の数字や内容については別頁の後期研修紹介と、亀田総合病院のHP参照: <http://www.kameda-resident.jp/senior/examination/internal/internal07.html>)

【当院で提供可能な後期研修後のキャリア】

●フェローシップ

・ Faculty Development (以下 FD) fellowship (2年間) :

我が国では今後質の高い指導医養成のニーズが更に高まると予想されます。FD fellowship では、将来の指導医が学ぶべきコンピテンスを理論と実践を組み合わせる有機的に学習し、良質な指導医及び、アカデミックリーダーを養成します。

・ General Practitioner with Special Interest (以下 GPwSI) fellowship (1-2年間)

同僚の家庭医に対してコンサルタントとして機能出来る高いレベルのサブスペシャリティを特定の領域に持つ家庭医を GPwSI と呼称します。当院ではマタニティケア/ウイメンズヘルス、スポーツ医学における GPwSI の育成を目的にフェローシップを運用しています。

●短期研修

1ヶ月程度の開業前研修から数ヶ月の長期研修まで、また内容も一般診療から診療所運営、検査手技(内視鏡、エコーなど)等の特定領域まで、可能な限り対応します。

【まずは相談を】

当院では別記のように小児、ウイメンズヘルス、スポーツ医学、透析、訪問診療等の診療も積極的に行っています。また亀田総合病院や安房地域医療センターとの密な連携、修了生とのネットワークなどを通じた大学、離島、海外へのネットワーク等、幅広い資源が利用可能です。「やりたい事があるが方法論が定まらない」、「利用したリソースを提供できるプログラムが見当たらない」などの悩みを持つ方、原則として学習者のニーズに合わせた柔軟なカリキュラム作成をモットーとしています。上記プログラムと合致しなくてもまずは一度ご相談下さい。

◆女性医師が働きやすいような工夫/フルタイムでの就労が困難ながら家庭医としての学びと実践を続けたい方、希望に合わせて勤務日数調整や夜間当番免除など、条件面については柔軟に対応します(育児中の女性医師の勤務実績あり)。

◎連絡先/亀田ファミリークリニック館山 〒294-0051 千葉県館山市正木4304-9

TEL : 0470-20-5520 FAX : 0470-20-5521 E-mail : office.kfct@gmail.com 担当者 : 岡田 唯男 (医局秘書 粕谷)

C-06 東京医科大学病院総合診療科病院総合医養成プログラム

対象 : 後期研修で家庭医療専門医または認定内科医を取得した者

身分 : 臨床研究医

研修期間 : 2年間

概要 : 病院総合医に要求される能力は、内科を中心とした幅広い知識を必要としますが、各臓器別専門医への橋渡しが重要です。当科は、大学病院の診療科でありながら年間1万例を超える内科系初診患者を担当しています。内科系の1次救急も担当し、急性心筋梗塞、急性虫垂炎、脳出血などの初期対応を行います。基本的な面接、診察、検査で数多くの症例の鑑別をトレーニングすることができ、かつ臓器別専門医のコンサルトを受けることが出来ます。また、臓器別専門医からのコンサルテーション症例も多く経験できます。

主な研修内容と特徴 :

- ・ 外来研修 : 4回 / 週程度、他科研修時は1回 / 週
- ・ 病棟研修 : 主治医としてチームの中心となって診療
- ・ 当直研修 : 1~2回 / 月、1回10名前後の内科系の1~2次救急患者を担当
(希望者は当院救命救急センターで3次救急も研修可能)
- ・ 初期研修医の指導 : 4~5名 / 月の初期研修医を指導
- ・ 他科ローテーションと : 希望する診療科を選択可能
- ・ 社会人大学院 : 希望すれば研修しながら社会人大学院生として学位も取得可能
(研究領域は、医学教育、公衆衛生学、微生物学、など希望に応じて選択可能)
- ・ 各種委員会活動 : (クリニカル・パス委員会、病歴委員会など)へ委員として参加
- ・ 豊富な学習機会 : 院内の各種研究会、近隣の総合診療科との臨床検討会など

○プライマリ・ケアの生涯教育

- ・ 開業を考えている
- ・ プライマリ・ケア教育の研究がやりたい
- ・ 臨床を離れていたがプライマリ・ケアの研修がしたい
- ・ 臓器別の専門以外に幅広い診療能力を身につけたい
- ・ 学生や研修医と共にプライマリ・ケアを学びたい

このような意欲を持った医師を応援しています。身分は、今までの臨床経験や勤務できる範囲に応じて決まりますが、臨床研究医や兼任助教として研修する方が多いです。2015年度も17名の、皆さんが当科での生涯教育としての研修に参加されています。どうぞいつでもご連絡ください。

◆女性医師が働きやすいような工夫/出産・育児のための休暇のほか、育児短時間勤務の制度があります。また、育児やその他の理由でしばらく臨床から離れている医師の復職支援も行っています。詳しくは、「医師・学生・研究者支援センター」のHP <http://www.tmu-shien.com/index.html> もご覧ください。

◎連絡先/東京医科大学病院総合診療科 〒160-0023 東京都新宿区西新宿6-7-1

TEL : 03-3342-6111 FAX : 03-3349-6052 E-mail : soshin@tokyo-med.ac.jp 担当者 : 原田 芳巳

C-07 川崎市立多摩病院 小児科フェローシッププログラム

川崎市立多摩病院小児科フェローシッププログラム（以下当プログラム）は、聖マリアンナ医科大学病院の関連施設である川崎市立多摩病院における1年間の小児科研修プログラムです。2016年度より開始となり、現在1名の参加者がおります。家庭医療専門医を取得はしたが小児科診療に自信がない、または開業前に小児科診療をブラッシュアップしたい方などに最適なプログラムです。

1. 当プログラムの特徴

①小児科プライマリ・ケアを数多く経験できる

当院は376床の地域医療支援病院で、24時間365日、市内外からの患児を受け入れております。小児科病棟、外来研修を通じてcommon diseaseを数多く経験できます。

②バックアップ体制が整っている

当院の小児科医は10名態勢です。当プログラムはチーム医療として通常診療に組み入れられているため、指導医からのバックアップを常に受けることができ、安全な環境での研修が可能です。

③聖マリアンナ医科大学病院での小児科専門研修も可能

研修の到達度により、聖マリアンナ医科大学病院での周産期医療などの専門研修も可能です。

2. 当プログラム終了後に習得できるスキル

①小児ルートキーブ、血液検査をストレスなく行うことが可能となる。

②小児 common disease の一次救急、二次救急の初期対応や入院から退院までの病棟管理が可能となる。

③一般外来を通じて小児慢性疾患患者の適切な管理能力が身に付く。

④ハイリスク児を含め、予防接種スケジュールをたてて行うことが可能となる。

⑤帝王切開後も含め、新生児の診察を行うことが可能となる。

⑥患者をいつ、高次医療のできる病院に紹介すべきかという適切な判断力が身に付く。

3. 研修内容

救急外来では診療所からの紹介患者、救急車対応を通じてルートキーブや血液検査などの技術、common diseaseへの基本的対応方法を学びます。一般外来では喘息患児のfollowなど、継続した診療が可能です。また、予防接種、アレルギー、てんかん、療育といった専門外来も併設しており、より専門的な内容を学ぶこともできます。病棟では胃腸炎、気管支喘息、尿路感染症といったcommon diseaseの患児が入院しております。産婦人科で出産があると新生児が退院するまでは小児科が担当となるため新生児の診察能力も身に付きます。1年間の研修が終了すれば、小児科を subspeciality とすることができ、自信をもって小児診療をおこなうことが可能となります。皆様の参加をお待ちしております。

♣女性医師が働きやすいような工夫/妊娠中及び育児中の女性医師には、夜間休日の業務を免除又は軽減する等の対応を行っています。ただし、業務軽減医師数には定員があり、欠員がない場合は利用出来ないことがあります。

◎連絡先/川崎市立多摩病院 〒214-8525 神奈川県川崎市多摩区宿河原1-30-37

TEL : 044-933-8111 FAX : 044-933-8362 E-mail : yusaku@marianna-u.ac.jp 担当者 : 宮本 雄策

C-08 つくば家庭医・病院総合医プログラム

本プログラムは、大学の後期研修プログラムでありながら、研修の80%以上を指導医が常駐する市中病院、診療所で行う体制をとっており、家庭医でも、病院総合医でも、高いレベルの臨床能力を備えた専門医になれるプログラムです。

研修プログラムの特長～めざすなら、本気で～

①「当たり前前のごことを当たり前前に行える」確かな臨床能力の重視

総合診療医の基盤となるのは、まず「いい医者になる」こと。我々は、臨床医としての基盤となる臨床能力と、幅広い診療技能を高いレベルで修得することを特に重視しています。

② Common disease/problem についての数多くの経験

研修の80%以上が市中病院、診療所で行われるので、さまざまな環境で数多くの経験を積むことができます。

③充実した指導体制

「どこで研修していてもきちんと指導が受けられる」指導体制を実現するため、30名以上の指導医が各研修施設にて直接指導を行っています。

④家庭医・病院総合医どちらにも対応

家庭医コースと病院総合医コースの両方があり、レジデントの希望に合わせて選択できます。

⑤高いレベルでの緩和ケア研修が可能

高齢化社会を迎える中で家庭医・病院総合医にとって必須となる緩和ケアを高いレベルで修得することが可能です。

研修プログラムの構成

シニア（卒後3・4年目）：内科・総合診療科で研修し、総合診療医としてのしっかりとした基盤を作ります。

チーフ（卒後5・6年目）：レジデントの希望により家庭医と病院総合医の二つのコースに分かれて、専門医取得を目指します。

主な研修先

筑波メディカルセンター病院、筑波大学、水戸協同病院、つくば家庭医療センター（大和クリニックなど）

取得可能な資格

内科認定医、家庭医療専門医、総合内科専門医、在宅医療専門医

研修後の進路

①フェローシップ：興味のある領域をさらに深く掘り下げて研修するプログラムで、現在は、病院総合医、在宅医療、大学院があります。詳細は「つくばフェロー」をご覧ください。

②指導医：それぞれの希望に合わせて大学病院・一般病院・診療所などの指導医として就職できます。

③大学院：詳細は「つくばフェロー」をご覧ください。

♣女性医師が働きやすいような工夫/筑波大学総合診療グループは、メンバーの半数近くが女性医師であり、出産・育児を経験しながら研修を続けている先輩が多くいるので、グループ全体でメンバーの経験や知恵を共有し、ライフステージに合わせて女性医師の研修をサポートしています。

◎連絡先/筑波大学 総合診療グループ

〒305-8576 茨城県つくば市天久保2-1-1 筑波大学附属病院 総合診療グループ

TEL : 029-853-3189 FAX : 029-853-3189 E-mail : soshin@md.tsukuba.ac.jp 担当者 : 前野 哲博

C-09 東京慈恵会医科大学 大学院医学研究科（博士課程）地域医療プライマリケア医学

プライマリ・ケアについて研究をしてみませんか？

東京慈恵会医科大学では大学院博士課程に「地域医療プライマリケア医学」を新設致しました。主に地域医療、プライマリ・ケアを実践されている医師を社会人大学院生として受け入れています。すでに現在、10名以上が在籍しており活発に研究活動を行っています。コースは4年間で疫学や生物統計などの単位修得および研究を行い学位論文を仕上げることにあります。

就学場所：東京慈恵会医科大学（東京、西新橋）

期 間：4年間（学位取得までは計8年間在籍できます）、社会人大学院生の場合、働きながら学ぶことができます。

科 目：大学院医学研究科（博士課程）地域医療プライマリケア医学

プライマリ・ケア医に研究の素養は必要か？

家庭医療学は北米や欧州における General Practitioner (GP) の活動が基盤となり発展してきました。医療における生物学的な面だけではなく、人文科学、社会科学を統合した学問領域といえます。なぜ実践家であるプライマリケア医・家庭医に研究の素養や技術が必要なのでしょう？一つめは臨床医としてエビデンスの消費者としてだけでなく科学者としてエビデンスの生産者となるべきです。二つめとしてプライマリケア現場で生じている問題は、医療設備や地域の特性などの環境や対象となる患者さんが異なる大学や高次機能病院の臓器別専門医は気づくことができないからです。そして最後に私が最も重要だと思っているのは、医師という人生を歩む人間として研究活動は日常、そして医師の人生に彩りを添えることだと思います。

Academic GP を目指す人にも！

欧米では Academic GP (general practitioner) と呼称されるプライマリ・ケア医がいます。大学や学術機関で研究や教育活動をしなが GP としても医療をおこなっている人たちです。このように大学などの学術機関にも、家庭医療やプライマリケア医学に理解があり積極的に地域医療の最前線に立つ医師たちとコミュニケーションがとれる医師が必要です。プライマリケア研究で成果を上げていくためには、地域と大学の collaboration が必須であり、わが国のプライマリケア医学、家庭医療学を発展させていくための条件だと信じています。今では、学位よりも専門医資格のが重要視されるのが一般的かと思いますが、もし「あなた」が academic GP を目指すのであれば学位を取得しておくことを強くお勧めします！

というわけで、一緒に研究しませんか？

◎連絡先／東京慈恵会医科大学 臨床疫学研究室 〒221-0075 東京都港区西新橋3-25-8

TEL：03-3433-1111（内線2399） E-mail：masato@jikei.ac.jp 担当者：松島 雅人

C-10 CFMD フェローシップ

①指導医養成フェローシップ（リーダーシップトレーニングフェローシップ）— CFMD Leadership Training Fellowship

医療福祉生協連 家庭医療学開発センター（Centre for Family Medicine Development：CFMD）による、家庭医療指導医及びリーダー養成のためのフェローシッププログラムです。参加者はフェローと呼ばれ、1年間にわたりリーダーシップと家庭医療教育に関する学びをすすめます。

内 容：家庭医療の理論的基盤を学び教育・診療に生かす。フェローの家庭医療指導医としての能力開発。

フェローが所属する施設の医療の質向上（quality improvement）プロジェクトの実施。

これらの学びを通じてリーダーシップの涵養をはかります。また、教育方略は、スカイプなど Web2.0 を活用した各種遠隔教育、オンライン討議、さらにオンサイトの学び、サイトビジットにおけるワークショップ開催など多彩な形式をとります。

対 象：家庭医療後期研修プログラムのプログラム責任者あるいは指導医の役割を果たしている医師。今後プログラム責任者又は指導医となる予定の医師。所属施設は診療所、病院を問わない。

②在宅医療フェローシップ— 医療福祉生協連 在宅医療フェローシップ

在宅医療フェローシップ・東京は、2009年よりスタートした日本在宅医学会認定、在宅医療研修プログラムの認可をうけ、家庭医療学開発センター（Centre for Family Medicine Development：CFMD）のフェローシップとして2009年4月からスタートしました。家庭医療をベースにした在宅医療研修プログラムとしては、教育内容、教育環境、教育実績において、全国随一の在宅医療研修プログラムといえるでしょう。

③リサーチフェローシップ— 医療福祉生協連 家庭医療学リサーチフェローシップ

家庭医として診療の実践をしながら、家庭医療の現場に即した研究で PhD（医学博士号）を取得することが可能なフェローシップです。東京慈恵会医科大学大学院（博士課程）総合医科学研究センター臨床疫学研究室と連携した正規のプログラムです。

内 容：フェローシップ期間：4年

定 員：1～2名

応募資格：原則として家庭医療後期研修プログラムを修了、または修了予定の方で、東京慈恵会医科大学社会人大学院の入学試験に合格した方。東京あるいは関東近辺の医療生協診療所に勤務する方が望ましい。

選 考：2014年8月末日 面接試験により実施

給 与：所属診療所の常勤医待遇となります。週2単位の研究日が勤務保障されます。なお、研究事情によって、短期間の研究集中期間を設定することも可能です。

♣女性医師が働きやすい工夫／勤務形態の複線化。出産・育児を支援するため、週4日勤務、当直免除等常勤医師の勤務形態を多様化させている。

◎連絡先／医療福祉生協連 家庭医療学開発センター（イリヨウフクシセイキョウレンカテイイリヨウガクカイハツセンター
〒169-0073 東京都新宿区百人町3-25-1 サンケンビルディング4階（シンジュクク ヒャクニンチョウ）

TEL：03-4334-1580 FAX：03-4334-1585 E-mail：kd_i@hew.coop 担当者：氏名 出野 孝道（イテノコウドウ）

C-11 王子生協病院 医学教育フェローシップ

少子高齢化の進行による急性期疾患から慢性期ケアのシフト、救急車のたらいまわし・地域の医師不足など「医療崩壊」と呼ばれる社会状況がある一方で iPS 細胞、遺伝子治療などの高度医療の開発とそれに伴う倫理の確立など、様々な医学・医療に関わる問題が一斉に表面化した。こうした課題を解決する手段として、世界的に医学教育改革が進められている (Elizabeth, K, 2001)。しかし、医療現場で医学教育を学ぶ機会はまだまだ少ない。

当院では30年以上前より研修医を教育する環境があり、その歴史と文化を踏まえ、地域の医療福祉の現場を舞台に教育者を育成すべくフェローシッププログラムを開発した。求めるべきアウトカムは以下のように定義し、3つのミッションを挙げた。

<アウトカム>現場の文脈をとらえながら、理論と実践を往復できる Clinician educator (臨床における教育者) を育成する。

<ミッション>① Good medical teacher 6領域 (Harden, 2000) (右下図参照) にまたがるポートフォリオを作成する。

② 医学教育に関わるワークショップ・学習会に参加し、日本の医学教育の現状の把握と人的ネットワークを作る。

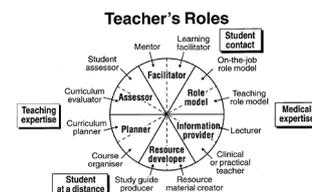
③ プロジェクトを通じて、多職種に関わることで組織・文化の変化をもたらす。

上記のアウトカムを踏まえ、指導者と学習者が相談し学習方法を決定する。方法としては、研修医の直接指導を始め、現場に即した研修医の評価の開発、定期的なレクチャー、緩和ケアチームの運営など教育的経験を積みながら、医学教育関連の論文・教科書をもとに振り返りを行い、対話をもとにポートフォリオを作成していく。学習者は作成したポートフォリオ、プロジェクトマネジメントの報告書、自己の振り返りで評価される。期間は基本1~2年としている。興味のある方は、下記にご連絡いただき、ご応募いただきたい。

(医学教育フェローシップ プログラム責任者 春田 淳志)

◎連絡先/王子生協病院 〒114-0003 東京都北区豊島3-4-15

TEL : 03-3912-2201 FAX : 03-3912-6170 E-mail: takanori_kanoh@tokyohokuto.or.jp 担当者: 加納 高則



C-12 診療所マネジメントプログラム、子育て女性医師支援診療所勤務プログラム「さくら草」

☆ 診療所の「副所長」を経験しませんか ~ 「診療所マネジメントプログラム」

○医療生協さいたまは埼玉県内に8つの診療所を運営しています。いずれも「わたしたちの診療所をつくろう」という地域の組合員の願いと運動により開設した地域に根ざした診療所です。

○診療所でありながら、医師をはじめ薬剤師、検査技師、放射線技師、管理栄養士などの多職種のチーム医療を実践しています。併設する訪問看護、訪問介護と連携した在宅療養支援診療所であり、保健予防事業や健康づくりなど地域の健康増進、急患対応から生活習慣病、終末期までの外来診療などプライマリケアを総合的に経験できます。

○月平均で、外来のべ患者数1000件、往診のべ20件の診療所から外来3000件、往診200件の大型診療所まで、地域のポジショニングにより多彩な取り組みをしています。

○これから家庭医療専門医の資格を取得したい方、専門医取得後に診療所での地域医療を実践したい方など、経験とニーズにあわせて勤務地や勤務条件を相談できます。フル勤務は難しいがパート勤務ならできる方、一緒に勉強したい方も、見学や問い合わせなど、気軽にご連絡ください。

詳しくは右記のサイトをご覧ください。 <http://www.kateii-saitama.jp/index.html> **家庭医 埼玉** で検索してください。

♣女性医師が働きやすい工夫/子育て女性医師支援診療所勤務プログラム「さくら草」は、子育て中で子育てとキャリアアップを両立させたい女性医師で、家庭医療に興味をお持ちの方にお勧めします。適宜、託児付き勉強会や子供連れで持ち寄りの抄読会・発表会・講演会などを行い、励まし合って育児と勉強を両立する支援をします。

◎連絡先/医療生協さいたま生活協同組合 〒333-0831 埼玉県川口市木曾呂1317

TEL : 048-294-6111 (代) FAX : 048-294-1601 E-mail : oinuma@mcp-saitama.or.jp

担当者: 生沼 信恵 (おいぬま のぶえ)

C-13 国立病院機構東埼玉病院 総合診療科フェローシップ

当科では、外来・在宅（在宅患者数約100名、在宅看取り約35名/年）・施設（特養2施設220名）・入院（約15床）と様々な場で、シームレスな診療を行っています。フェローシップの期間は1～2年ですが、期間に関しては相談可能です。

Q1 どんな人におすすめ？

A1 後期研修を終了したが、「いろいろまだみてみたい」、「在宅をしたいけどまだ入院診療もしたい」等、どこか1つのセッティングではなく、様々な場での臨床を实践したいあなたにおすすめです！当然、学会専門医を取得していない方や、スペシャリストとしてやってこられた方も大歓迎。

Q2 雇用形態、休みや通勤のことが気になるんだけど…？

A2 国立病院機構常勤医師としての雇用になります。東京からの通勤も可能です。土日オンコールは月に2回程度で、それ以外の土日は完全フリーです。

Q3 どんな資格がとれるの？

A3 日本在宅医学会の在宅医療専門医研修施設であり、1年間で、在宅医療専門医の受験資格を得ることができます。また、日本内科学会認定教育施設（教育病院）です。

Q4 臨床以外ではどんな活動をしているの？

A4 H24年度から在宅医療連携拠点事業というモデル事業の運営に関わっており、地域での在宅医療推進のために市や医師会と協力しながら事業を行っています。また、地域の老人福祉センターなどで健康教室などを行って、地域のヘルスプロモーションに貢献できるよう努めています。

Q5 フェロー終了後の進路は？

A5 卒後6～8年頃に当科に勤務した医師の進路は、継承開業、当科継続勤務、大学病院勤務、診療所勤務など多岐に渡っています。

Q6 女性医師が働きやすいような工夫はしている？

A6 国立病院機構で規定されている産前・産後休暇、育児休業、育児短時間勤務を利用することができます。当科で以前これらを利用して勤務していた女性医師もいます。

Q7 どんな臨床をやっているの？勉強会とかやっているの？

A7 たとえば、あるフェローの1週間は下のような感じです。グループ診療で、同じ患者さんをみんなで共有・相談しながらみえています。



	月	火	水	木	金
朝	勉強会	ポートフォリオの指導	リハビリ科カンファ	栄養士とのカンファ	勉強会、神経内科カンファ
午前	施設回診	訪問診療	施設回診	外来	訪問診療
午後	病棟業務	訪問診療	病棟業務	訪問診療	病棟業務
夕方	カンファレンス（訪問診療患者全例、施設患者で相談・共有症例、入院患者全例について毎日カンファレンス）				

◎連絡先／国立病院機構東埼玉病院総合診療科 〒349-0196 埼玉県蓮田市黒浜4147

TEL：048-768-1161 FAX：048-769-5347 E-mail：mimanaga@nhs.hosp.go.jp 担当者：今永 光彦

C-14 河北・在宅ケア専門医研修プログラム（在宅医療専門医取得コース）

超高齢社会の到来に伴い、在宅医療のニーズが急増しています。在宅医療がカバーする医学領域は広く、また医療依存度の高い方も増加しており、在宅医療の実践は医師にとってもチャレンジングな分野となってきました。このような中で、在宅医療のニーズに応えられる質の高い在宅医を育成する本格的な研修プログラムの創設が必要とされています。

在宅医療専門医試験

2009年から日本在宅医学会では在宅医療専門医育成のための研修プログラムをスタートしました。この研修プログラムは、在宅医療専門医を目指す医師が、1年（あるいはそれ以上）の期間、学会が認定した在宅医療研修プログラムをもつ医療機関で研修を行い、在宅医療専門医を取得する制度です。以下の条件を満たし、認定研修プログラムを修了したものに受験資格が与えられます。

- ・学会が認定した在宅医療研修プログラムを修了していること。
- ・在宅医療研修プログラム終了時に医師として5年の経験があること。
- ・半年間以上の内科での研修を修了していること。
- ・緩和ケア研修（3か月相当）を修了していること。

河北総合病院 東京・杉並家庭医療学センターは、日本在宅医学会、および、日本緩和医療学会の認定研修施設として、訪問診療を行っています。特色としては、センターに属する訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所、および、地域包括支援センターと共に、多職種連携を重視した包括的な在宅ケアの提供を行っていることにあります。在宅専門医として、地域で活躍するための幅広い知識と技術の修得とともに、多職種協働のためのマネジメントスキルを養成することができる研修プログラムです。また、小児から高齢者まで在宅ケアの対象者としており、悪性腫瘍をはじめターミナル患者の受け入れも積極的に行っているため、在宅緩和ケアに必要な技術・能力を身につけることができるのも特色です。研修期間は2年間、在宅導入から、慢性期、急性期、そして終末期までの在宅ケアを包括的に学習することができる研修プログラムです。

♣女性医師が働きやすいような工夫／非常勤として研修することも可能（週4単位以上）、クリニック併設の託児所あり

◎連絡先／社会医療法人 河北医療財団 東京・杉並家庭医療学センター

〒180-0001 東京都杉並区阿佐ヶ谷北1-3-12 河北サテライトクリニック

TEL：03-3339-2197 FAX：03-3339-3604 E-mail：kenshu-jim@kawakita.or.jp 担当者：小林・酒井

C-15 地域医療振興協会 家庭医療フェロースhipプログラム

家庭医療後期研修プログラム修了者及び現在地域医療に携わる医師で、地域医療・家庭医療に関してさらに研修、研究を進めようとする医師を対象に、地域医療振興協会の豊富な資源を活用して下記フェロースhipプログラムを提供します。

①リーダーシップ、マネジメントプログラム

【プログラムの対象者】

- ・家庭医療後期研修プログラム修了者
- ・地域医療・家庭医療に関する研修・研究を希望する医師

【プログラムの目的】

- ・家庭医療専門医取得後の学びをサポートする
- ・地域医療振興協会各施設とその地域、家庭医療後期研修プログラムにおけるリーダー、教育者を育成する

【プログラム内容】

- ・基本的には協会各施設で就業しながらの、定期的な遠隔教育プログラム（年数回の会合も開催予定）
- ・学べる内容は下記の通り
リーダーシップ理論、施設マネジメント・経営・質の改善、教育理論、JADECOMの仕組み、行政との関係作り、家庭医療の基本原則など

【プログラム指導医】

- ・協会内指導医（遠隔受講可能）

②老年医学×リハビリテーションプログラム

【プログラムの対象者】

- ・老年医学・リハビリテーションに興味がある家庭医医療専門医、内科認定医など

【プログラムの内容】

- ・台東区立台東病院を中心に高齢化の進む都市型地域医療を学ぶ

【修練施設（台東区立台東病院）】

- ・日本リハビリテーション医学会認定研修施設
- ・日本老年精神医学会認定施設（申請中）

【プログラム指導医】

- ・ハワイ大学家庭医療・老年医学レジデンシー修了者、日本プライマリ・ケア連合学会認定指導医、日本リハビリテーション学会指導医など

◎連絡先／公益社団法人地域医療振興協会 〒102-0093 東京都千代田区平河町2丁目6番4号 海運ビル4階

TEL：03-5210-2921 FAX：03-5210-2924 E-mail：s-nomura@jadecom.or.jp 担当者：臨床研修センター 野村

C-16 徳洲会地域家庭医療フェローシッププログラム

徳洲会地域家庭医療フェローシッププログラム (随時採用中)

徳洲会地域家庭医療総合センターでは、家庭医だからこそ出来る独特な医療を様々な地域環境の中で住民の皆様提供しています。この家庭医として必要な、多様な経験や価値観を修養するために、私たちはその研修の場を離島から被災地、発展途上国・欧米など海外へと広げています。

現在、家庭医養成教育施設として地域住民の信頼と満足を得る医療を実践・提供していますが、更にサービスの拡大と教育・研究を充実させるために年間を通してフェローを募集しています。フェローシップ募集分野は、①当院産婦人科との合同でのウィメンズヘルス（産婦人科専門医資格修得可）、②屋久島・徳之島での離島家庭医療、③国際医療（ラオス、ブルガリア）・災害医療、④徳洲会アスリートを中心としたスポーツ医学、④教育／経営マネージメントのプログラムを設けておりますので、これらを1～3年間研修することで家庭医療サブスペシャリティを極めることが可能です。（近年中に大学との関連において、博士号修得コースも設置する予定）。終了後は、希望に応じて今後全国に増設する徳洲会家庭医療センターにおいて、各分野の指導医または担当ファカルティーとして活躍できる場を提供・保証いたします。

このように家庭医療のダイバーシティを経験し、専門分野も深められるようフェローシッププログラムを組んでおります。これが、他にはない当プログラムのユニークさです。

私たち徳洲会の家庭医療プログラムは、私達の持つ日本全国と世界のネットワークを使って、皆様に“Bigな家庭医”に育てていただくことで日本の家庭医療の発展に寄与していきたいと考えていますが、その中心となるのはフェロー達だと思っています。現在当プログラムは、まだ小規模で人数も少ないですが、家庭医療診療、在宅医療、離島医療、在日外国人医療活動、ラオスとの交流など既に開始していますので、今すぐにもメンバーに加わって、私たちと共にダイナミック家庭医療を展開して行きませんか。

センター長／プログラムディレクター 佐野 潔

◎連絡先／徳洲会地域家庭医療総合センター（棟原総合病院内） 〒421-0493 静岡県牧之原市細江2887-1
TEL：0548-22-1131 FAX：0548-22-6363 担当者：岸端、翁長 E-mail：kenshu-c@tokushukai.jp

C-17 三重大学家庭医療学後期研修プログラム

三重大学家庭医療学では、三重大学を含む各後期研修を終了後、または研修中、以下のフェローシップを用意しております。なお、下記の各々は、教育・研究のための病院・診療所で勤務をしながら受講となり、希望に応じて適宜、施設をご案内いたします。

1. 下記の各フェローシップを実施するために、三重大学に地域医療学講座 (**Department of Education and Research in Family and Community Medicine**) を設置しており、家庭医療・総合診療の教育担当の医師、非医師教員、研究担当の医師、非医師の教員を配置。各地域医療学講座や文科省の未来医療事業などから豊富な研究費が使用可能。
2. **「アカデミック GP 教育コース」**：家庭医・総合診療医育成のための卒前医学教育や卒業臨床研修（セミナー、プログラムも含む）を実施できる人材を育成するためのコース。医学博士も取得できるコースも用意。4年間。
3. **「総合診療のための PhD コース」**：リサーチマインドを持った総合臨床医を育成するための大学院博士課程のコース。統計学、疫学Ⅰ、疫学Ⅱ等のコース共通と家庭医療・総合診療、地域医療、医学教育などのコース別の実習・演習が含まれる。当教室教員のみならず、三重大学公衆衛生・疫学センター（疫学）や人文学部（社会科学）、教育学部（教育、心理学）、そして他大学・施設（質的研究など）からの招聘講師・非常勤講師による。医学博士を授与。年齢、職種を問いません。4年間。
4. **「地域での総合診療指導医養成セミナー」**：地域で診療する臨床医が総合診療医育成の指導医になるために、コース（e-learningを含む）が開発されています。
5. 上記の他、多職種連携（IPE）の教育のための**「多職種協働のチーム医療プログラム」**、海外で働く準備コースや実際の発展途上国を含めた派遣先（できるだけ給与支給）の斡旋をおこなう**「海外総合診療医チャレンジコース」**なども用意しています。

♣女性医師が働きやすいような工夫／女性医師・男性医師が教育・研究や診療に参加できるように、研修医療施設に関連する保育施設（24時間保育、病児保育を含む）の設置、講演等の事業において積極的にベビーシッターを準備、またはテレビ会議システム等を使用して、または e-learning を利用して在宅で教育・研修が受けられるなど、環境を整備。

◎連絡先／三重大学大学院医学系研究科家庭医療学 〒514-8507 三重県津市江戸橋 2-174
TEL：059-231-5290 FAX：059-231-5289 E-mail：fcm@clin.medic.mie-u.ac.jp 担当者：竹村 洋典

C-18 静岡家庭医養成プログラム

静岡家庭医養成プログラムのフェローコースとは

静岡家庭医養成プログラム（SFM）は少子高齢社会で輝ける“明日の家庭医”の養成を目指しています。明日の家庭医（Tomorrow's Family Physician）とは、以下のことができる家庭医です。①家族ぐるみのかかりつけ医になる（小児科、産婦人科、救急医療、在宅ホスピスを含めた全科診療ができる）②患者中心の医療ができる（bio-psycho-social approach もできる）③グループダイナミクスを理解してグループ診療ができる ④高齢者医療・福祉において中心的役割を担うことができる

上記のことができる上にさらに高齢者医療に特色を持つ、あるいは女性医療に特色をもつ家庭医を要請するフェローコースを設けています。

- 1) クリニカル・フェローコース（1年間）：家庭医療あるいは総合内科の研修を修了したものの、全科診療が十分でない家庭医志望者をサポートするコースです。まだ不十分な整形外科・スポーツ医学、産婦人科、小児科、皮膚科、心療内科等の診療できるようにローテーション研修も含めた研修ができるコースです。
- 2) フェローコース：①老年医学コース（2年コース）…1年目には在宅医療・在宅ホスピス、高齢者精神医学、リハビリテーション、高齢者施設・高齢者婦人科などを研修し2年目はさらにリサーチを行います。②ウイメンズヘルス・コース（3年コース）…3年間で産婦人科の研修を行い、産婦人科専門医資格を取得することができます。3年目にはリサーチも行うことができます。

このコースを修了すると指導医として働くことができます。

◆女性医師が働きやすいような工夫／妊娠、分娩、育児休暇を十分に取ることができます。また、復帰する場合も託児所があり乳児を預けながら研修あるいは勤務を続けることができます。

◎連絡先／菊川市家庭医療センター 〒437-1507 静岡県菊川市赤土1055-1

TEL：0537-73-5551 FAX：0537-73-5557 E-mail: sfm@tenor.ocn.ne.jp 担当者：宮下 香実

C-19 名古屋大学総合診療科ジェネラリスト指導医養成プログラム（医学部附属病院医員、大学院医学博士課程）

● 医学部附属病院総合診療科医員

ホスピタリスト（ドクターG）を目指して、診療および教育のスキルを学びます。また、地域の病院で勤務する指導医に対して自身の臨床能力の研鑽と教育スキルの習得を目的とする半年～1年の国内留学プログラムも提供しています。

病棟診療は、学生・初期研修医、後期研修医、医員で構成される主治医チーム体制を敷いています。アテンディング（診療科長、病棟医長）とともに毎朝病棟カンファレンスを行い、診断・治療に難渋する患者（不明熱、原発不明の悪性腫瘍、膠原病など）に診療科全体で取り組みます。外来では、頭痛、発熱、倦怠感、ふらつき、全身の痛みや違和感といった受診すべき専門診療科が特定できない患者の診療にあたります。外来には毎日教員が指導医として常駐しており、夕方にはその日の初診担当医とともにすべての初診患者のレビューを行います。また、対応に苦慮している症例や学びの多い症例をスタッフ全員で共有する外来カンファレンスを毎週開催しています。

医学部6年生のクリニカルクラークシップや5年生の臨床実習など医学生に対する教育機会を通して教育スキルを学ぶことができるのも大学病院ならではです。

● 大学院医学系研究科医学博士課程

研究により得られたアウトカムを世の中に発信することは、自分のアイデンティティを大いに高めてくれます。また、アウトカムを得る課程の中で、“物事を詳しく調べたり、深く考えたりする”という活動自体が、人間が持つ“真理を追究する欲求”を満たしてくれます。

当科では、臨床を行う中で、また医学教育に携わることによって生じた疑問や発想をもとに研究テーマを見つけ、研究プロジェクトを立ち上げていただきます。教員および大学院の上級生がそれをサポートします。また、当科は国内外の多くの研究者とコラボしており、そこで学んだり（海外あるいは国内留学）、共同研究を組むこともできます。

◆女性医師が働きやすいような工夫／外来診療および医学教育に特化した勤務形態での医員採用も行っています。週3～4日間の平日日勤帯での勤務となります。当直や時間外の呼び出しはありません。また、院内託児施設を優先利用できるのも、もう保育所探しに苦労することはありません。

出産・育児のためしばらく臨床から離れていた女性医師の臨床能力の再獲得を目的とする再研修プログラムも提供しています。大学病院の研修登録医となり、総合診療科初診外来で週1～2日のOJTを行っていただきます。

◎連絡先／名古屋大学総合診療科 〒466-8560 愛知県名古屋市昭和区鶴舞町65

TEL：052-744-2951 FAX：052-744-2960 E-mail：juichi@med.nagoya-u.ac.jp 担当者：佐藤 寿一

C-22 兵庫医科大学 アカデミックジェネラリスト コース

本コースでは、総合内科学講座を中心に、外来部門である総合診療センター、入院部門の総合内科、地域医療部門を担うささやま医療センター（大学附属病院）、及び大学院医学研究科を活用して、アカデミックジェネラリスト、未来の総合診療の指導者を養成します。プライマリケア認定医もしくは内科認定医が未取得である場合は、院内各科とも協力して必要な経験を積むことができます。総合内科専門医や家庭医療専門医の取得も奨励しています。アカデミックジェネラリストの基盤として、当コースでは、質の高い臨床教育スキルと臨床研究スキルを重視しており、日々のピアレビューや様々な教育機会を通じて、継続的に研鑽することができます。医学博士の取得を強く奨励しており、大学院には、昼間コースと夜間コースがあります。昼間コースでは研究時間が確保されますし、夜間コースでは教員を続けながら医学博士を取得することができます。コース参加者は、原則教員として採用（助教～）され、主に総合診療センターでの外来教育及び総合内科での病棟指導（いずれも医学生、初期研修医、後期研修医対象）を他の教員と協力して従事します。希望者は、教員の身分を維持したまま、本学の附属病院であるささやま医療センターで地域医療に従事することもできます。研究活動は活発であり、臨床疫学・統計の授業に加え、既に走っている研究プロジェクトのデータを使つての解析及び論文執筆、自分のテーマに基づいた臨床研究の企画運営と様々な機会を通じて、一生モノの臨床研究スキルを身につけることができます。本コースには年限は定めていませんが、本コースを通じて、臨床教育者や臨床研究者、総合診療センスのある臓器別専門医、地域における総合診療医、家庭医など、自分に合ったキャリアを見つけることができます。

♣女性医師が働きやすいような工夫／当科では、外来枠も含めて交代制勤務としており、病棟管理についてもチーム制になっているため、女性医師に限らず、全てのスタッフのワークライフバランスに対応しております。育児期間に診療から離れる際には、臨床研究を積極的に奨励しており、生活ペースに合わせた研究活動で、臨床のアップデートと業績を積むことができます。また、兵庫医科大学は、「短時間勤務取扱規程」を設けており、条件を満たせば週2日からの勤務が可能です。

◎連絡先／兵庫医科大学 内科学総合診療科 〒663-8501 兵庫県西宮市武庫川町1番1号
TEL：0798-45-6879 FAX：0798-45-6920 E-mail：tm@hyo-med.ac.jp 担当者：教授 森本 剛

C-23 阪南市民病院 救急・総合診療科 後期研修後キャリアプログラム

当院は、平成23年に公立病院の民間による指定管理運営を開始し、平成25年には7階建ての新病院で新しい一歩を踏み出しました。大阪の辺境地とも言われるこの地では、在宅医療や終末期医療等、家庭医の広い知識や技術が求められます。185床の中規模病院のため、小回りが利き、各々の医師のニーズに応じたプログラムが組み、幅広くトレーニングができるため、確実にスキルアップに繋がります。さまざまな経歴を持った指導医から総合診療を学びませんか？是非一度、病院見学にお越し下さい。

〈対象〉総合診療に興味をお持ちの方、開業前の期間限定勤務をご希望の方、大歓迎です。

〈期間〉相談に応じます。

〈研修プログラムの目標〉長期・短期に関わらず、柔軟にプログラムを組み、希望に応じて専門医の指導も行います。

〈指導医〉藤本尚（院長）、北方一成（部長）、内堀善有（副院長）

〈当院の医師について〉当科以外に、消化器内科1名、消化器外科3名、整形外科2名、小児科2名、麻酔科2名、歯科口腔外科2名が勤務しており、非常勤外来として、内科（糖尿病内科、肝臓内科、循環器内科）、皮膚科、泌尿器科、婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科があります。

〈研修内容〉救急・総合診療中心の研修となります。その他、下記内容を専門医、専門技師と共に積極的に行っています。また院外研修（最大3カ月程度）を数回行い、足りないスキルや経験を補うことも可能です。

現在の診療内容：救急外来、総合診療外来や病棟業務、小児科外来、上下部内視鏡検査、気管支鏡検査、心臓・腹部・体表エコー、消化器外科・整形外科手術介助、緩和医療、在宅医療（本年度から本格的に開始予定）

〈当直〉3～4回/月。当直明けは午前だけの勤務です。

〈カンファレンス等〉・月曜日 勉強会

・水曜日 入院症例検討会

・水曜日と木曜日 PCLS 早朝カンファレンス

・金曜日 看護師等と週末に向けての申し送り

知識や症例の共有のため、上記カンファレンスを行っています。その他、院外勉強会にも参加できるよう、勤務調整を行います。

〈資格・学会等〉日本プライマリ・ケア連合学会、日本内科学会、日本救急医学学会等に参加しています。院内のコースとして、BLS、ACLS 施行中です。

♣女性医師が働きやすいような工夫／子育て中の医師は、常勤・医師短時間勤務制度（週30時間勤務）、院内保育や病児保育を利用しています。外来と検査のみの勤務も可能ですので、ご相談ください。

◎連絡先／社会医療法人生長会 阪南市民病院 〒599-0202 大阪府阪南市下出17
TEL：072-471-3321 FAX：072-471-6543 E-mail：k_hoppou@seichokai.or.jp（北方）/j_kanda@seichokai.or.jp（神田）
担当者：総合診療科 部長 北方 一成 / 総務課 神田 樹理

C-24 地域を支え地域を科学する総合診療医育成プロジェクト (MPH コース)

文部科学省の未来医療研究人材養成拠点形成事業に岡山大学と地域の医療機関が連携して参加し、「地域を支え地域を科学する総合診療医の育成」プロジェクトが採択されました。岡山県全域を5つのエリアに分け、岡山県全域で良質な家庭医療後期研修を提供する新しい後期研修プログラムを受講後、更なるステップアップを考える方に最適なコースが本プロジェクトの MPH (Master of Public Health) コースです。

本コースは、岡山大学がリサーチマインドを持った総合診療医及び医療、保健、福祉従事者を育成し、各地における地域包括ケアの構築に資するために創設するものですが、在学生や入学希望者から学位としての欧米の MPH に相当する修士 (公衆衛生学) の修得の希望や問い合わせが増えてきています。今回岡山大学が設置する公衆衛生学コースも国際標準に適合するカリキュラムを有しており、「修士 (公衆衛生学)」の学位を授与するための国際標準を満たしていますが、医歯科学専攻 (修士課程) では教育内容に応じて履修コースを開設しており、一般コースと異なり修士 (公衆衛生学) の学位取得を目的としたコースとなっているのが特徴です。

海外の公衆衛生大学院 (ハーバード公衆衛生大学院) から特別講師を招聘し、コアカリキュラムのレベルを世界標準で提供 (過去5年間の実績有り。共著論文30編弱) すると共に、臨床修練科目として多職種連携を行える地域のリーダー育成としての「地域医療演習」を奈義ファミリークリニック・哲西町診療所において提供します。また E-Learning やポートフォリオを充実させ、復習の質を向上させると共に遠隔地 (岡山県北など) における受講も支援します。

プログラム責任者は岡山大学大学院医歯薬学総合研究科疫学・衛生学講座 土居弘幸教授 です。

♣女性医師が働きやすいような工夫/岡山大学は女性医師支援でも長い取り組みがあり、復職支援や育児サポート (病児保育など) のノウハウもっています。この領域に詳しい片岡仁美教授 (地域医療人材育成学講座) と GIM センターの伊野英男教授が全力でサポートします。

◎連絡先/岡山大学 医療共育統合開発センター GIM センター部門 〒700-8558 岡山県岡山市北区鹿田町2-5-1

TEL : 086-235-3835 FAX : 086-235-6834 E-mail : GIMcenter@md.okayama-u.ac.jp

担当者 : 伊野 英男 (GIM センター) / 土居 弘幸 (岡山大学大学院医歯薬学総合研究科疫学・衛生学講座)

C-25 岡山家庭医療センター在宅医学フェローシップ・リハビリフェローシップ・MPH コース支援

岡山家庭医療センターでは後期研修終了後のキャリアとして以下の3つのコースを提供します。コース以外にも内部向け FD を提供して、教育・管理面の指導医としての成長を促す取り組みがあります。

1) 在宅医学フェローシップ

在宅医学会認定の1年間のプログラムです。グループ診療での訪問診療を生かした、在宅医学をもう一步深める取り組みを行い、1名の修了生 (在宅医学専門医取得) を輩出しています。緩和ケアや在宅リハビリなど家庭医としての訪問診療を自らが行うだけでなく、後輩の指導が十分できるレベルに成長できます。

2) リハビリテーション・フェローシップ

平成26年4月からリハビリ専門医が母体病院の日本原病院にこられることから、開始する予定のプログラムです。病院でのリハビリテーションにとどまらず、訪問リハビリの視点やリハビリ多職種との連携も含めて研修を行います。日本リハビリテーション医学会認定臨床医の受験資格を取ることができます。

3) 岡山大学 MPH コース受講支援

TV 会議システムを活用して、遠隔で MPH コースを受講できる仕組みを整えました。家庭医療の現場での臨床を継続しつつ、週2コマの研究枠をもうけ、E-Learning での授業の受講や岡山大学の講師との TV 会議でのディスカッションが行えるシステムです。岡山県北にしながら、臨床研究 (疫学と質的研究の両方) を2年間かけて学ぶことが可能となりました。

♣女性医師が働きやすいような工夫/産休あけの女性医師が非常勤から開始し、時短常勤で勤務できる体制をとっています。核家族で子供の発熱時にはシフトを工夫して対応しています。

◎連絡先/奈義ファミリークリニック 〒708-1323 岡山県勝田郡奈義町豊沢292-1

TEL : 0868-36-3012 FAX : 0868-36-6435 E-mail : info@fpcokayama.com 担当者 : 松下 明、水島 弥生